

## 施設花きの発育段階別温度の設定に関する研究

第5報 ポット・マムの生育，開花及ぼす電照終了後の17℃期間と転換夜温の影響

柏木征夫・小林泰生・松川時晴

(福岡県園芸試験場)

第4報では，ポット・マム“ホステス”を用いて摘心後の短日初期を2週間ごと3期にわけて夜温転換を行ない，初期の17℃が開花を促進すること，17℃は2週間より4週間の影響が強いこと，などを報告した。本報告はさらに初期4週間の夜温転換について，品種“パーミリオン”（短幹性，9週間型）を昭和52年12月20日に15cm鉢に5株定植した後，53年1月13日に摘心，消灯し，1，2および3週間，17℃で栽培したのち，14°，11°および8℃とする第1表の夜温設定で，各2本仕立てとして生育，開花反応を検討した。

## 結果及び考察

発らいは17℃の日数が多いほど早い傾向を示し，17℃3週間区が早く，その後の夜温が8℃=4区でも28日目の2月10日で，17℃2週間後14℃=5区の2月11日，17℃1週間後14℃=8区の2月12日と比べ，むしろ早いほどで影響が少なかった。開花反応は発らいとほぼ比例した。しかし，転換後の夜温が14℃と11℃では，開花は

全期間17℃区と比べ，17℃，2，3週間区では同等または早かった。小花数については舌状花数および舌状花率は17℃3週間の各区がともに，全期間17℃と同等で優れたが，17℃2週間後，11℃以下，特に8℃では少なく，しかも低率となった。転換後の夜温が低いほど舌状花が少なく，筒状花が増したが，その影響は17℃1週間より2週間の方が大きかったのは，摘心と同時に17℃短日とし，舌状花形成初期の夜温低下の影響も考えられる。また花首の長さは全期間17℃がわずかに長かったが，茎長は転換した低夜温の各区は全期間17℃に比べ，いずれもやや長く，さらに葉数には差がないことから，17℃より節間伸長に有効に作用したと考えられる。

以上の結果から，“パーミリオン”の摘心，消灯後の夜温は発らい，開花，舌状花数，茎長などから，17℃1週間後の夜温転換では開花がやや遅く，2週間では11℃以下で舌状花数を減少するなどから，17℃3週間がよく，その場合，11℃まで低温管理できるものと思われる。

第1表 “パーミリオン”の生育，開花に及ぼす電照終了後の17℃期間と転換夜温の影響

区	夜温設定		発らい 月 日	開 花		発らいか 開 花 日 数	茎 長 cm	葉 数 枚	柳葉数 枚	花 径 cm	花首長 cm	舌 状 花 数	筒 状 花 数	舌 状 花 率 %
	17℃転換夜温	週		開 花 日	日 数									
1	全週間	17	2. 8	3. 17	63	37	12. 1	9. 5	0. 9	8. 4	1. 6	193. 6	19. 3	90. 9
2	3	14	2. 7	3. 15	61	36	14. 0	8. 2	1. 3	9. 7	1. 2	194. 2	22. 1	89. 8
3	3	11	2. 9	3. 17	63	36	15. 0	8. 4	1. 6	9. 3	1. 2	193. 2	20. 5	90. 4
4	3	8	2. 10	3. 23	69	41	14. 4	9. 0	1. 4	9. 2	1. 2	193. 3	25. 0	88. 5
5	2	14	2. 11	3. 16	62	33	17. 7	9. 6	1. 6	8. 9	1. 2	181. 0	24. 7	88. 0
6	2	11	2. 14	3. 18	64	32	14. 2	9. 2	1. 4	8. 6	1. 1	180. 6	36. 5	83. 2
7	2	8	2. 19	3. 24	70	33	15. 3	8. 8	1. 4	8. 9	1. 4	154. 0	54. 5	73. 8
8	1	14	2. 12	3. 19	65	35	17. 6	8. 7	1. 6	9. 1	1. 4	178. 3	18. 6	90. 6
9	1	11	2. 13	3. 20	66	35	15. 8	8. 6	1. 2	7. 6	1. 3	159. 7	19. 3	89. 2
10	1	8	2. 23	3. 27	73	35	15. 0	8. 6	1. 4	7. 6	1. 1	149. 7	32. 8	82. 0